

【質問1】

- ①シカを集めるのに使われる楽曲や楽器の選択に関する科学的根拠はあるのか。
- ②シカに限らず動物の誘導や捕獲に音が使われている例があるのか。

【回答1】

- ①シカを集めるのに使われる楽曲や楽器についての研究は行われておらず、野生動物保護管理の観点から鹿寄せについて慎重な意見もでもある。
- ②シカの音に対する反応については、近年の北海道において、エゾジカの交通事故を防ぐためにシカを寄せ付けないための音の研究が行われている。

【質問2】

- ①1985年に春日大社がシカの所有権の放棄したのはなぜか。
- ②春日大社での所有権放棄後のシカの管理はどうなっているのか。

【回答2】

- ①以前より奈良公園の外に逸出したシカによる農業被害があり、1985年に農協非加盟農家が、春日大社、(財)奈良の鹿愛護会らを相手に裁判を起こした。鹿害裁判と呼ばれるこの裁判で、春日大社側は敗訴し、春日大社はシカの所有が負担になるとの判断から所有権を放棄した（詳しい経緯は、渡辺伸一 2001「保護獣による農業被害への対応 —「奈良のシカ」の事例—『環境社会学』7、を参照のこと）。なお奈良の鹿愛護会では、鹿苑にシカを集めて夜間のあいだ保護をしてきたが、1960年代ころから奈良公園近辺の交通量が増えたことで、シカを鹿苑に集めることが難しくなってきたため、シカを鹿苑に積極的に収容しないという方向に転換している。
- ②人身被害対策、公園外逸出を防止する観点から、春に妊娠したシカを一時的に保護し、冬には鹿の角を取る（除角）ために収容している。この間、一時的に餌を与えて飼養することになる。ただし、これ以外の時期には一切、餌付けはしていない。

【質問3】

- 1892年に鹿寄せが復活したのは背景には何があるのか。

【回答3】

当時の春日神鹿保護会の記録にはその背景は記されていないため、現時点での推論になるが、江戸期以降、鹿を専門的に処理する集団の存在や、明治初期にも公園内の柵に鹿を飼養するため、鹿を集めるという作業があり、特定の集団が経験的に獲得してきた技術を応用した結果と考えられる。これらの具体的な検討については、今後の課題である。